

## 抄読会

### ナルコレプシー/ Narcolepsy

博士課程 1 年 鎌田悠太/ Yuta Kamada

#### 概要

ナルコレプシーは慢性的な眠気を引き起こす代表的な疾患の 1 つである。症状の発生から診断に至るまでに平均 5 年間から 15 年間とされており (Scammell, 2015), この深刻な空白の期間の原因の 1 つとして, ナルコレプシー当事者や医療関係者を含むすべての人々の疾患への認知不足が挙げられる。また, 欧米と比べて, 本邦におけるナルコレプシーの疾患負担に関する研究は限られている。そこで本研究の目的として, 本邦におけるナルコレプシーの疾患負担に関して明らかにすることとした。本研究を通して, 疾患啓発だけでなく, さらに研究の基礎となることが期待される。本抄読会では, 本研究の計画について共有した。

#### Overview

Narcolepsy is one of the most common causes of chronic sleepiness. The average time from the onset of symptoms to diagnosis is 5 to 15 years (Scammell, 2015). One of the reasons is lack of awareness from people living with narcolepsy, clinicians, and others. Compared to U.S. and European countries, the number of reports on the burden of the disease is limited in Japan. The aim of this study is to reveal the current situation of narcolepsy in Japan.

#### Reference

Scammell, T. E. (2015). Narcolepsy. *N Engl J Med*, 373(27), 2654-2662. doi:10.1056/NEJMra1500587

以上